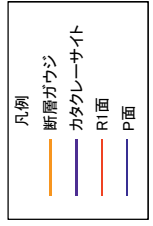
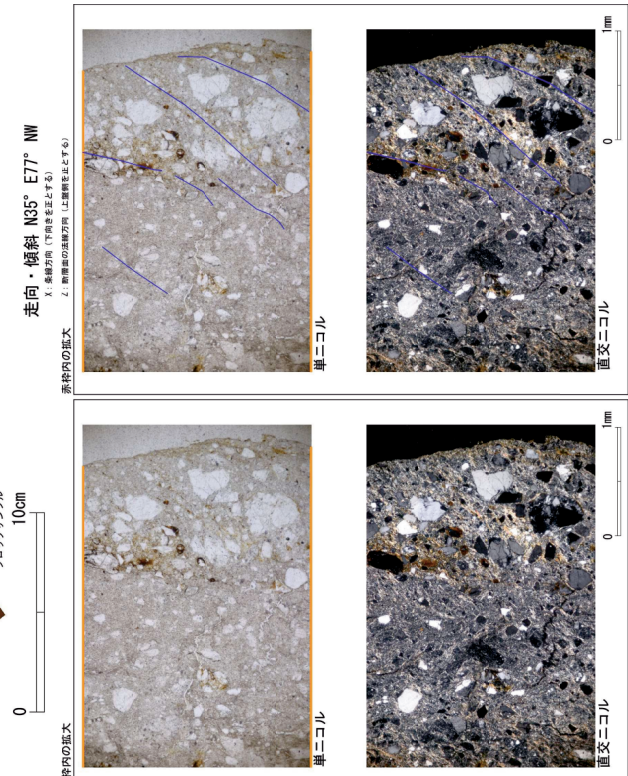
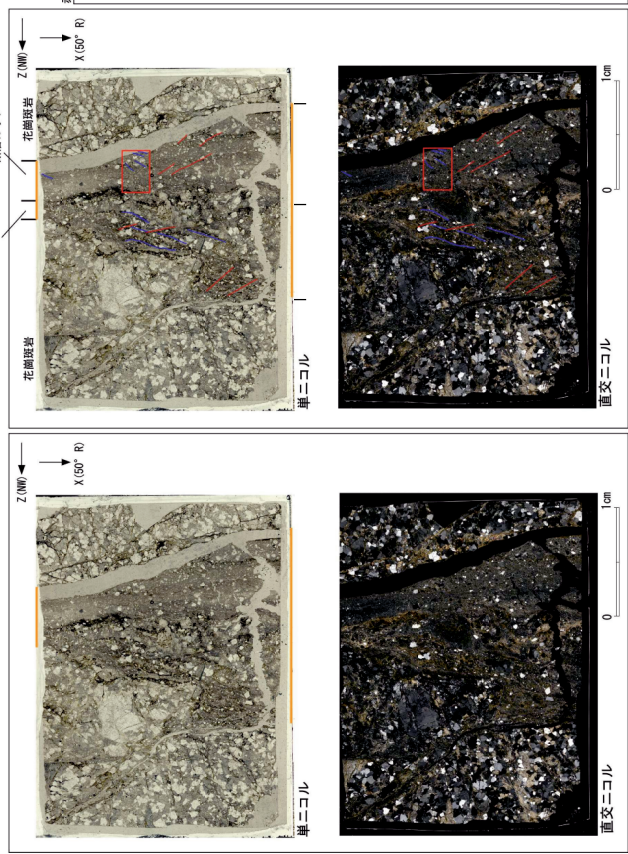
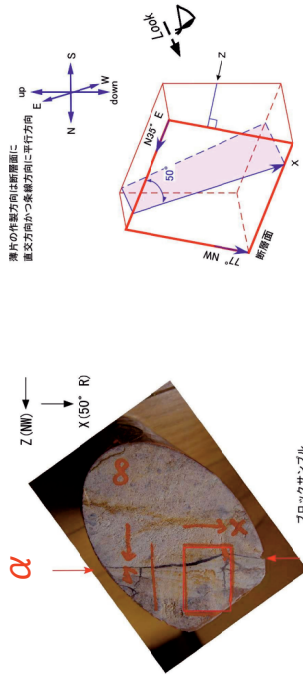
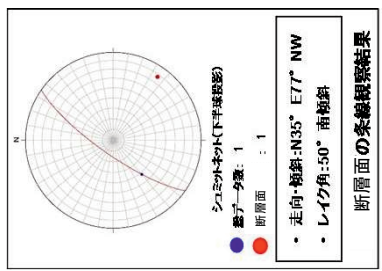


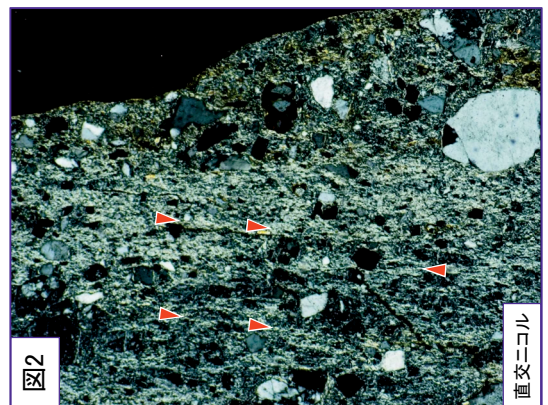
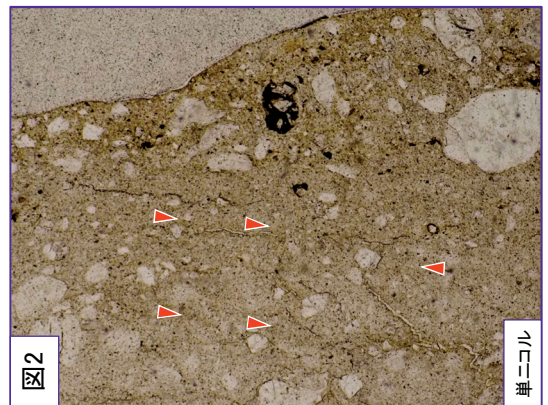
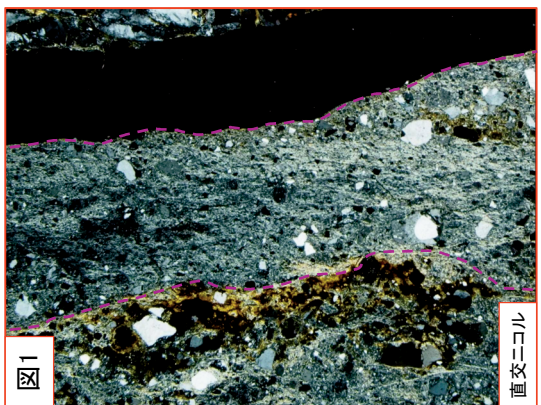
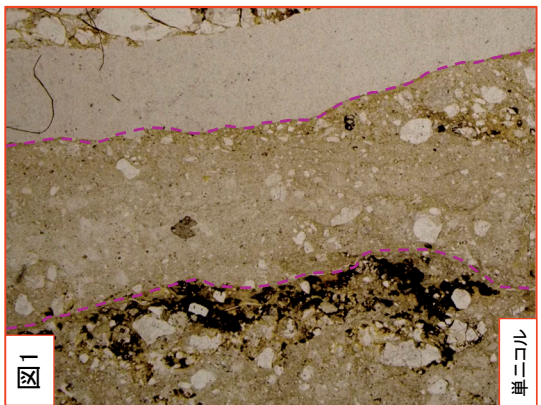
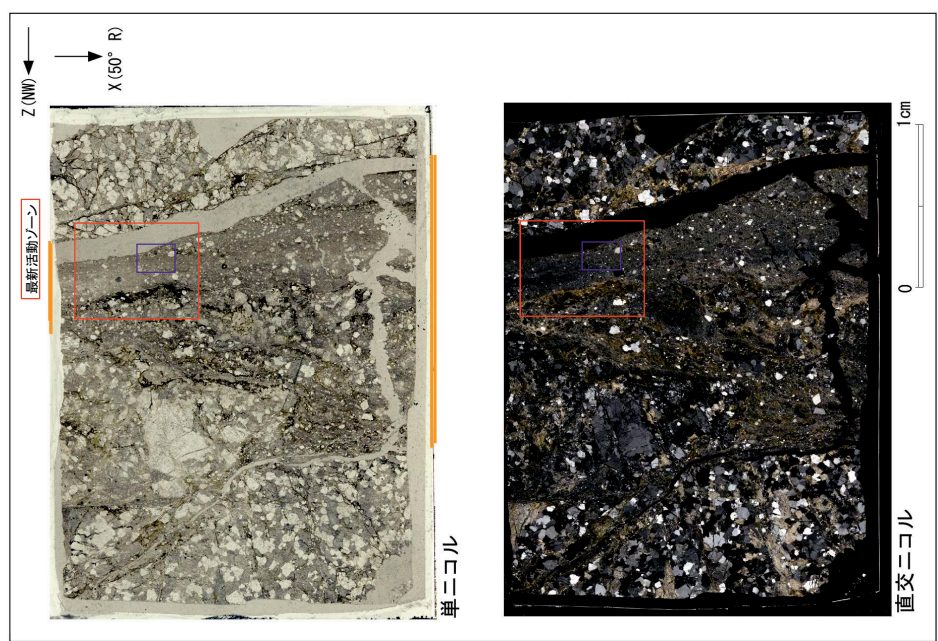
-H24-B14-2のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、左ずれを伴う正断層である。
 -最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
 > (断層ガウジ)せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 > (断層ガウジ)基質は粘土鉱物を主体とする。
 > (断層ガウジ)粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 > 岩片は少ない。
 > (断層ガウジ)丸みを帯びている岩片が多い。
 > (カタクレーサイト)岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

※断層面 α は最新活動面



第7.4.4.302図 (3) 破碎部性状 H24-B14-2 深度28.50~28.66m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/3))

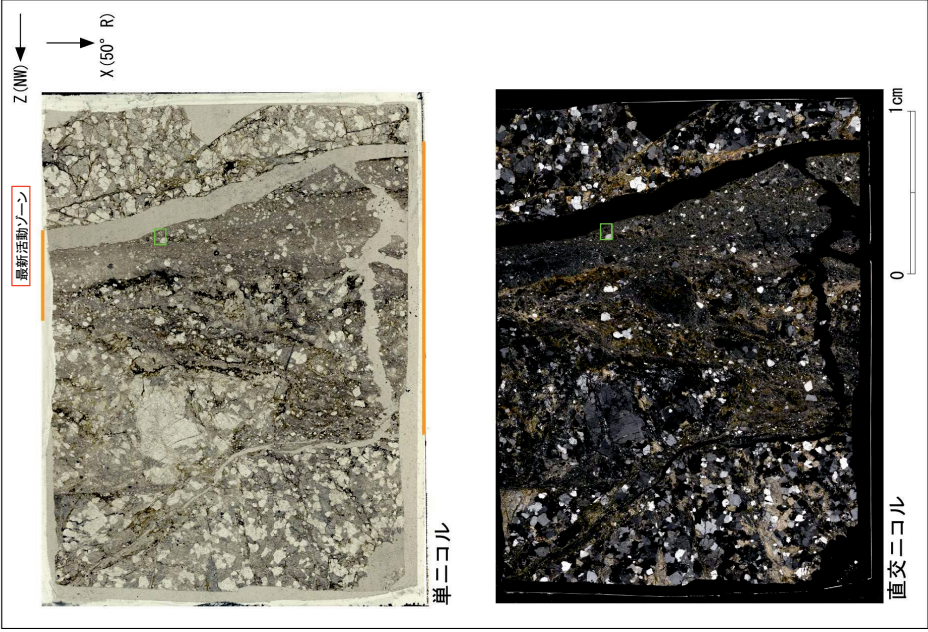
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



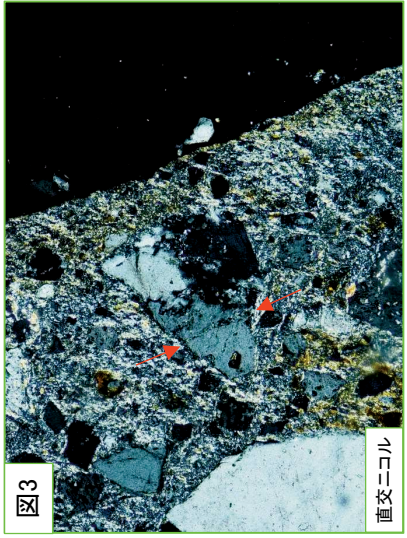
破線は帯状で直線的な範囲を示す

赤三角の方向は粘土鉱物の配列方向を示す

・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
 ➤ 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図3)



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す



(肉眼観察結果 深度28.50m)

- 肉眼観察では、礫混じり粘土状部は、軟質で細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面 α に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面 α は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
 - せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
 - 基質は粘土鉱物を主体とする。
 - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
 - 岩片は少ない。
 - 丸みを帯びている岩片が多い。

- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサーサイトの特徴が認められた。
 - 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサーサイトの特徴は、カタクレーサーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられる。

以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された礫混じり粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm] *	明瞭なせん断構造・変形構造 *
有	0.1	有

*:断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。
断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

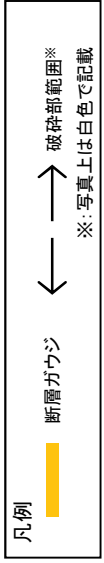
第7.4.4.302図 (6) 破砕部性状 H24-B14-2 深度28.50~28.66m (断層岩区分の総合評価)

・深度38.10～38.27mの「粘土混じり礫状」と記載の箇所については、軟質であるが、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化された岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

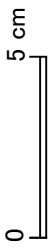
・一方、深度38.10mにはフィルム状の細粒部が挟在しており、幅が狭いため、肉眼観察では原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無を把握できなかった。これらのことから断層ガウジとして扱うこととした。

ボーリング柱状図

●38.10～38.27m：破砕部
粘土混じり礫状部 (Hj)
上端40°、下端50°でともに波打つて連続。径2～10mmの岩片主体で、下部ほどシルト～粘土分を多く含む。38.10～38.19mは灰白色、38.19～38.27mは淡黄灰色を呈する。幅110mm程度の38.10mにはフィルム状の暗緑灰色の細粒部を伴う。



深度38.10mのフィルム状の細粒部
細粒部は局所的に分布する



・薄片は断層面 α 及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

コア写真

※断層面 α は最新活動面



凡例

断層面 ← 断層ガウジ → 破砕部範囲※

※:写真上は白色で記載

薄片作製位置写真



X:条線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

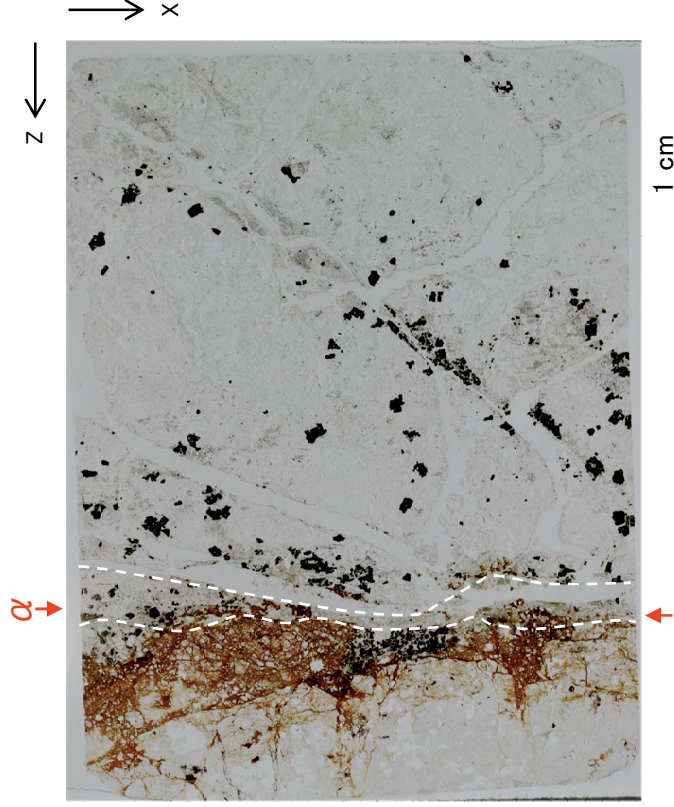
凡例

断層面

肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※

※:写真上は白色又は黒色で記載

薄片全景写真(単ニコル)



X:条線方向(下向きを正とする)
Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)